

2023 年 9 月 19 日（火）
於 高麗大学校

平安期初頭の仏者の文②——空海が伝えた文の世界

河野貴美子（早稲田大学文学学術院）

一、空海とその「文」の軌跡

空海 ...774 ～ 835。『続日本後紀』巻四・承和二年（835）三月庚午条の伝によれば、空海は讃岐国多度郡の人、俗姓は佐伯直。15 才で舅の阿刀大足に就いて文書を読習し、18 才で大学に入学、その後仏道に入り、31 才で得度、入唐留学して長安青龍寺の恵果和尚から真言を学び得て帰国、少僧都、大僧都を任じた。著作に『秘密曼荼羅十住心論』、『秘藏宝鑰』、『弁頭密二教論』、『大日経開題』、『実相般若経答釈』、『梵字悉曇字母并釈義』、『秘密漫荼羅教付法伝』（『広付法伝』）、『御請来目録』、『文鏡秘府論』、『文筆眼心抄』、『聾瞽指帰』、『三教指帰』、『篆隸万象名義』、『遍照發揮性靈集』、『高野雜筆集』などがある。

【資料1】①「為大使与福州觀察使書」（『性靈集』巻五 38）

＊丸囲み数字は【資料3】に対応。アラビア数字は『性靈集』所収作品の通し番号。

賀能啓。……賀能等、忘身衛命、冒死入海。既辞本涯、比及中途、暴雨穿帆、戕風折柁。高波沃漢、短舟裔裔。……賀能等、万冒死波、再見生日。是則聖德之所致也。非我力之所能也。……伏願垂柔遠之惠、顧好隣之義、縱其習俗、不恠常風。（定本弘法大師全集第八巻）

＊『続日本紀』巻三十四・宝龜八年（777）二月壬寅条

都蒙言曰、「都蒙等一百六十余人、遠賀皇祚、航海来朝。忽被風漂、致死一百廿、幸得存活纔卅六人。既是、陰浪之下、万死一生。自非聖朝至德、何以独得存生。……今承十六人別被处置、分留海岸。譬猶割一身而分背、失四体而匍匐。仰望、宸輝曲照、聽同入朝。」
（新日本古典文学大系）

【資料2】③「与越州節度使求内外經書啓」（『性靈集』巻五 40）

夫重舶一日千里猛風之力也、遍覺虚往実帰大王之助也。臨日月而得水火、附鳳鵬而届天涯。感応相助之功妙矣哉。伏惟、中丞大都督節下、天縱粹氣、岳瀆挺生。且儒且吏、綜道綜釈。彈压班馬、金声玉振。并吞回賜、珪璋瑚璉。上帝簡德、為人父母。松筠子視、鸞雉降馴。……可謂觀音之一身、付属之四依。法之流塞只繫吐納。伏願顧彼遺命、愍此遠涉。三教之中經律論疏伝記乃至詩賦碑銘卜医五明所撰之教、可以發蒙濟物者、多少流伝遠方。斯則太士之所經賞、小人之所不意。

＊空海『御請来目録』『上新請来經等目録表』

夫以、鳳凰于飛必窺堯舜、仏法行藏逐時卷舒。今則一百余部金剛乘教兩部大曼荼羅海会請来見到。雖云波濤沃漢風雨漂舶、越彼鯨海平達聖境。是則聖力之所能也。伏惟、皇帝陛下、至德如天、仏日高轉。人之父、仏之化。悲蒼生而濡足、鍾仏囑而垂衣。以陛下新御旋璣、新訳之經自遠新辰。以陛下慈育海内、海会之像過海而来也。恰似符契、非聖誰測矣。
（定本弘法大師全集第一巻）

【資料3】『遍照發揮性靈集』主要作品

『遍照發揮性靈集』(以下『性靈集』) ... 真濟撰。十卷。うち巻八～巻十は濟暹編『統遍照發揮性靈集補闕抄』による補。計 129 首の作品を収める。本文の引用は定本弘法大師全集 第八巻による(底本は東寺觀智院所蔵正嘉二年(1258)・建治三年(1277)刊本)。弘法大師空海全集 第六巻、日本古典文学大系 71 も参照。

- 延暦二三 804 ①「為大使与福州觀察使書」(巻五 38)。
- 大同元 806 ②「大唐神都青龍寺故三朝国師灌頂阿闍梨惠果和尚之碑」(巻二 13)、③「与越州節度使求内外經書啓」(巻五 40)。平城天皇即位。空海帰国。『御請来目錄』。
- 大同四 809 嵯峨天皇即位。④「勅賜世説屏風書了献表」(巻四 19)。
- 弘仁元 810 葉子の変。⑤「奉為国家請修法表」(巻四 20)、⑥「東太上為故中務卿親王造刻檀像願文」(巻六 49)。
- 弘仁二 811 ⑦「書劉希夷集献納表」(巻四 21)、⑧「奉献雜書迹狀」(巻四 22)、⑨「書劉庭芝集奉献表」(巻四 25)。
- 弘仁三 812 ⑩「奉献筆表」(巻四 23)、⑪「献雜文表」(巻四 24)、⑫「献柑子表」(巻四 27)。
- 弘仁四 813 ⑬「答叡山澄法師求理趣經書」(巻十 107)、⑭「中寿感興詩并序」(巻三 15)。
- 弘仁五 814 『凌雲集』成立。⑮「奉謝恩賜百屯綿兼七言詩一首并序」(巻三 16)、⑯「献梵字并雜文表」(巻四 28)、⑰「沙門勝道歷山水瑩玄珠碑并序」(巻二 11)。
- 弘仁七 816 ⑱「於紀伊国伊都郡高野峯被請乞入定处表」(巻九 94)、⑲「勅賜屏風書了即献表并詩」(巻三 14)、⑳「祈誓弘仁天皇御厄表」(巻九 88)。
- 弘仁九 818 『文華秀麗集』成立。
- 弘仁一四 823 淳和天皇即位。㉑「奉賀天長皇帝即位表」(巻四 30)。
- 天長元 824 ㉒「辞小僧都表」(巻四 31)。
- 天長二 825 ㉓「被修公家仁王講表白」(巻八 84)、㉔「大和州益田池碑銘并序」(巻二 12)。
- 天長三 826 ㉕「奉為桓武皇帝講太上御書金字法華達嚩」(巻六 45)、㉖「奉造東寺塔材木曳運勸進表」(巻九 91)。
- 天長四 827 『経国集』成立。㉗「天長皇帝於大極殿屈百僧零願文」(巻六 47)、㉘「天長皇帝為故中務卿親王捨田及道場支具入橘寺願文」(巻六 46)。
- 天長八 831 ㉙「大僧都空海嬰疾上表辞職奏狀」「勅答」(巻九 90)。
- 天長一〇 833 仁明天皇即位。
- 承和元 834 ㉚「宮中真言院正月御修法奏狀」(巻九 87)。遣唐使任命。

二、空海が伝えた「文」

【資料4】『御請来目錄』

- 1 新訳等經都 142 部 247 卷(うち 118 部 150 卷は不空訳)
- 2 梵字真言讃等都 42 部 44 卷
- 3 論疏章等都 32 部 170 卷
- 4 仏菩薩金剛天等像法曼陀羅三昧耶曼陀羅并伝法阿闍梨等影共 10 鋪
- 5 道具 9 種
- 6 阿闍梨付嘱物 13 種

【資料5】嵯峨天皇への献上品 *丸囲み数字は【資料3】に対応。

④「勅賜世説屏風書了献表」(卷四 19)

⑦「書劉希夷集献納表」(卷四 21)

王昌齡詩格一卷、貞元英傑六言詩三卷、飛白書一卷

⑧「奉献雜書迹状」(卷四 22)、

徳宗皇帝真跡一卷 不空三蔵碑一卷

⑨「書劉庭芝集奉献表」(卷四 25)

⑩「奉献筆表」(卷四 23)

⑪「献雜文表」(卷四 24)

急就章一卷 王昌齡集一卷 雜詩集四卷 朱昼詩一卷 朱千乗詩一卷 雜文一卷

王智章詩一卷 讃一卷 詔勅一卷 訳経図記一卷

右伏承昨日進止。随探得且奉進。所遺表啓等、零在他処。今見令人覓。取来則馳奉。

⑫「献柑子表」(卷四 27) *詩を添える。

⑬「献梵字并雜文表」(卷四 28)

沙門空海言。空海聞。帝道感天則秘録必顯、皇風動地則靈文聿興。 稽古温故、自我垂範、非書而何矣。況復悉曇之妙章、梵書之字母、体凝先仏、理含種智、字絡生終、用断群迷。 文字之義用、大哉遠哉。 諺曰、「奴口甘、郎舌甜」。敢因斯義、欲献久矣。

..... 伏願陛下、一披梵字、梵天之護森羅。再閱神書、神人之衛逼側。

梵字悉曇字母并釈義一卷 古今文字讃三卷 古今篆隸文体一卷

⑭「勅賜屏風書了即献表并詩」(卷三 14)

三、「世説屏風」をめぐって

【資料6】④「勅賜世説屏風書了献表」(『性靈集』卷四 19)

世説書屏風兩帖

右伏奉今月三日、大舍人山背豊継、奉宣進止、令空海書世説屏風兩帖。空海、緇林朽枝、法海爛屍。但解持鉢錫以行乞、吟林藪而住觀。寧有現鬼墨池之才、跳龍返鵲之芸。豈図燕石魚目、謬当天簡。天命難追、敢汗珍繒。既無驚人之拔劍、還繞穢目之死蛇。悚之慄之、心魂惘然。謹附豊継、敢以奉進。謹進。

(1)『世説新語』の受容

【資料7】空海『三教指帰』卷上

戴淵変志登將軍位、周処改心得忠孝名。然則玉縁琢磨成照車器、人待切磋致穿犀才。

..... (定本弘法大師全集第七卷)

【資料8】劉宋・劉義慶『世説新語』自新

○周処年少時、兇彊俠氣、為郷里所患。又義興水中有蛟、山中有遘跡虎、並皆暴犯百姓。義興人謂為三横、而処尤劇。或説処殺虎斬蛟。実冀三横唯餘其一。処即刺殺虎、又入水擊蛟。蛟或浮或没、行数十里。処与之俱、経三日三夜、郷里皆謂已死、更相慶。竟殺蛟而出、聞里人相慶、始知為人情所患、有自改意。乃入吳尋二陸。平原不在、正見清河、具以

情告、並云、欲自修改、而年已蹉跎、終無所成。清河曰、古人貴朝聞夕死。況君前途尚可。且人患志之不立、亦何憂令名不彰邪。處遂自改勵、終為忠臣孝子。

○戴淵少時、游俠不治行檢、嘗在江・淮間、攻掠商旅。陸機赴假還洛、輜重甚盛。淵使少年掠劫。淵在岸上、拋胡牀、指麾左右、皆得其宜。淵既神姿峯穎、雖處鄙事、神氣猶異。機於船屋上遙謂之曰、卿才如此、亦復作劫邪。淵便泣涕、投劍歸機。辭厲非常。機弥重之。定交、作筆薦焉。過江、仕至征西將軍。
(新釈漢文大系)

*参考:『蒙求』「周處三害」(上巻)、「戴淵峰穎」(下巻)

(2) 書と文と屏風

【資料9】東大寺献物帳と屏風

▽「天平勝宝八歳六月二十一日献物帳(国家珍宝帳)」(756年)

→「御屏風壹百疊」、うち「鳥毛篆書屏風六扇」、「鳥毛帖成文書屏風六扇」など。

*「主無独治、臣有賛明、箴規苟納、咎悔不生。」

▽「屏風花氎等献物帳」(756年)

→「屏風一具十二扇(欧陽詢真跡)」、「屏風一具十二扇(臨王羲之諸帖書)」など。

▽「天平宝字二年十月一日献物帳(藤原公真跡屏風帳)」(758年)

→「書屏風貳帖(十二扇……有真草雜書)」

【資料10】中国における書と詩文と屏風

▽『旧唐書』虞世南伝

太宗嘗命写『列女伝』以装屏風、于時無本、世南暗疏之、不失一字。

▽『芸文類聚』卷六十九・服飾部上・屏風

「梁簡文帝答蕭子雲上飛白書屏風書」

※以上、樂曲氏の教示による。

▽北周・庾信「詠画屏風二十四首」

▽唐・白居易「題詩屏風絶句」序

十二年冬、微之(元稹)猶滯通州。予亦未離湓上。相去万里、不見三年。鬱鬱相念、多以吟詠自解。前後辱微之寄示之什、殆数百篇。雖藏於篋中、永以為好、不若置之座右、如見所思。繇是掇律句中短小麗絶者、凡一百首、題録、合為一屏風。……(『白氏文集』卷十七)

【資料11】平安期の漢詩文と屏風

▽『北山抄』卷三・拾遺雜抄上・内宴

仁壽殿……掃部寮立六尺御屏風三帖……第四間北辺一帖(南向、並漢書御屏風)。

(『神道大系 朝儀祭祀編三』)

▽『江家次第』卷八・七月・相撲召仰

上南殿御格子……東方御簾西辺立互五尺漢書御屏風……。

(『神道大系 朝儀祭祀編四』)

*『年中行事絵巻』内宴

▽『栄花物語』もとのしづく

年ごろは何ごとをかは、ただこの御かしづきよりほかのことなく思したれば、後漢書の御屏風や、文選、文集などの屏風を仕立て、御帳、御几帳よりはじめて、よろづの御具ども耀くばかりし集めたまひければ、げに内、東宮に参りたまはんに堪へて見えたり。

(新編日本古典文学全集)

▽『江談抄』第四

五嶺蒼々として雲往来す　　ただ憐れむ大庾万株の梅

天曆十年内裏御屏風詩　菅三品

広州の山中に嶺五つ有り。その一に大庾在り。嶺上に梅樹多し。南枝まづ花開く。この御屏風詩の題目は左大弁大江朝綱、勅を奉じて坤元録の中より撰進す。三人、詩を作る。すなはち朝綱・文章博士橘直幹・大内記菅原文時なり。参議大江維持、詔を蒙りて評定す。采女正巨勢公忠画き、左衛門佐小野道風書く。並びに当時の秀才なり。すべて八帖二十首。三人の作は六十首。江十首、橘二首、菅八首を選定す。作者の思ひを瀝ぐこと、この詩に如かず。ある人云はく、「紀在昌、作に入らず。内心窃かに歎きを為す」と云々。

(新日本古典文学大系)

* 大江朝綱(886 ～ 957)、橘直幹(生没年未詳)、菅原文時(899 ～ 981)、大江維持(888 ～ 963)、巨勢公忠(生没年未詳)、小野道風(894 ～ 966)、紀在昌(生没年未詳)

四、空海の「文字」と「文」への意識

【資料 12】⑦「書劉希夷集献納表」(『性靈集』卷四 21)

右伏奉小内記大伴氏上宣書取奉進。但恐久韞揮翰筆不勝意。不勉強書空汚珍紙。……「貞元英傑六言詩」三卷。元是一卷。縁書様大卷則随大。今分三卷。文是秀逸之文。書則楮臨王之遺体也。此属臨池之次写得奉上。「飛白書」一卷。亦是在唐之日、一見此体試書之。虎変為犬、雖未成功夫比之献芹。……

【資料 13】⑨「書劉庭芝集奉献表」(『性靈集』卷四 25)

……「六言詩」者、紙上無界、任意下。於「庭芝集」者、拘以界狭、容毫無地。「雜擬様詩」、字勢狂逸。狹路何堪。所以従之地勢筆迹亦変。聞之師曰、鑑者不写、写者不鑑。鑑者興来則書、遺其奇逸。写者終日矻矻、快之調句。余於海西、頗閑骨法。雖未画墨、稍覚規矩。……

*「真言七祖像」、『篆隸万象名義』

【資料 14】空海『大日經開題』(隆崇頂不見)

此阿字、大日世尊種子真言也。是經一部始終、唯説此一字義。其義無量。

(定本弘法大師全集第四卷)

【資料 15】空海『梵字悉曇字母并釈義』

此字母等非如来所作法自然道理之所造。……字非篆隸、語隔梵漢……然梵字梵語於一字声、含无量義。改曰唐言、但得片玉、三隅則闕。

(定本弘法大師全集第五卷)

【資料 16】空海『文鏡秘府論』

夫大仙利物、名教為基、君子濟時、文章是本也。故能空中塵中、開本有之字、龜上龍上、演自然之文。(天卷・総序)

夫文章之興、与自然起、宮商之律、共二儀生。(西卷・序)

(定本弘法大師全集第六卷)

参考文献

- ・後藤昭雄『『性靈集』について』『本朝漢詩文資料論』勉誠出版、2012。
- ・後藤昭雄「入唐僧の将来したもの——讃と碑文」「平安朝の願文——中国の願文を視野に入れて」「願文の主語——空海の願文」「呪願文考序説」「表白についての序章」『平安朝漢詩文の文体と語彙』勉誠出版、2017。
- ・河野貴美子「渤海使と平安時代の宮廷文学」仁平道明編『平安文学と隣接諸学五 王朝文学と東アジアの宮廷文学』竹林舎、2008。
- ・河野貴美子「空海在唐時代の啓について——古代東アジア外交における文筆をめぐる一考察」『早稲田大学日本古典籍研究所年報』12、2019.3。
- ・河野貴美子「空海の「文」をめぐる一考察——『遍照發揮性靈集』にみる実践と思考——」『国文学研究』192、2020.10。
- ・河野貴美子「危機下の「文」の機能とその力——空海の場合」久保朝孝編『危機下の中古文学2020』、武蔵野書院、2021。
- ・河野貴美子「空海の文事を通してみる平安朝文学史の一考察」『国語と国文学』98-5、2021.5。
- ・河野貴美子「写本時代的書写和文学载体——以《遍照發揮性靈集》為例的考察」杜曉勤・河野貴美子主編『文献・文学・文化：中日古典学交流与融通工作坊論集』北京大学出版社、2022。
- ・阿部龍一「平安初期天皇の政權交替と灌頂儀礼」サムエル・C・モース、根本誠二編『奈良・南都仏教の伝統と革新』勉誠出版、2010。
- ・阿部龍一「宗教の言説①——古代的仏教言説の転換」河野貴美子・Wiebke DENECKE・新川登亀男・陣野英則編『日本「文」学史 第二冊「文」と人びと——継承と断絶』、勉誠出版、2017。
- ・阿部龍一「空海のテキストを再構築する——『十住心論』の歴史的文脈とその現代性をめぐって」『現代思想』46-16、2018.10。
- ・奈良国立博物館編『正倉院展六十回のあゆみ』、奈良国立博物館、2008。
- ・正倉院事務所編『正倉院宝物1 北倉Ⅰ』、毎日新聞社、1994。
- ・藤田経世『校刊美術史料 寺院篇』中巻、中央公論美術出版、1975。
- ・東野治之「正倉院の鳥毛書屏風と「唐太宗屏風書」」、『遣唐使と正倉院』、岩波書店、1992。
- ・川口久雄「我が国における題画文学の展開」、山岸徳平編『日本漢文学史論考』、岩波書店、1974。
- ・小松茂美編『日本絵巻大成八 年中行事絵巻』、中央公論社、1977。
- ・後藤昭雄「坤元録屏風詩をめぐる」、『平安朝漢文学史論考』、勉誠出版、2012。
- ・神塚淑子「空海の文字観——六朝宗教思想との関連性——」『六朝道教思想の研究』創文社、1999。
- ・東寺(教王護国寺)宝物館編『弘法大師の書とその周辺』東寺(教王護国寺)宝物館、1987。
- ・京都国立博物館・真言宗総本山東寺・朝日新聞社編『創建一二〇〇年記念「東寺国宝展」図録』、朝日新聞社、1995。